

前枚方市議会議員 改革系無所属

駅前配布版 第98号(通算127号)
平成28年3月発行

かじや知宏 市政報告



<生年月日>昭和43年9月12日 <年齢>47歳 <出身地>大阪府枚方市 <趣味>読書、スポーツ観戦、神社仏閣巡り <血液型>O型
<経歴>阪保育所→殿山第二小→枚方三中→牧野高→龍谷大→報知新聞社(11年)→枚方市広報課(3年3ヶ月)→行政書士

<自宅>〒573-0171 枚方市北山1-23-57

電話 090-3705-9393

Eメール tomohiro@t-kajiya.com

かじや知宏のホームページ
<http://www.t-kajiya.com>

人口減少への対応 枚方市も30年後には人口が2割減少し3人に1人は高齢者の時代が 人口減少・少子高齢化時代に対応したまちづくりへの転換を



平成28年度の市政運営方針が、伏見市長より表明されました。人口減少への対応として、出生率を高め、市外への転出者を抑制し、転入者を増加させていくために「人が集まるまちづくりの推進」「高齢者が健康でいきいきと暮らせるまちづくりの推進」「協働によるまちづくりの推進」「将来世代に大きな負担を残さない徹底した市政改革の推進」を重点施策として掲げています。

枚方市人口推計調査報告書によると、平成55年には人口が25年から約8万人減少して約32万人となり、65歳以上の高齢者人口が約36.4%（約12万人）になると予測されています。出生率を高め、転出者抑制、転入者増の施策も重要であり、選挙公約を実行することは言うまでもありませんが、一地方自治体だけでできることは限られており、小手先だけの施策では、人口減少・少子高齢化といった大きな流れを止めることは困難です。またこの問題を解決するには、国家的に効果的施策を実行できたとしても百年単位の時間を要すると言われています。

人口減少・少子高齢化の時代を迎えて枚方市が取り組まなければならないことは、高度経済成長時代の人口が増加することを前提としたまちづくりから脱却し、人口が2割減り3人に1人が高齢者となる時代を前提としたまちづくりへと転換していくことです。このままでは、社会保障や住民サービスを維持することが厳しくなり、持続的発展が可能なまちづくりは望めません。学校などの公共施設のあり方をはじめ、宅地開発や道路インフラの整備、市役所が担う役割などの見直しを、住民合意を得ながら進めていくことが求められます。市政運営方針では、人口減少に対して一時的に効果が見込める施策は見られますが、将来を見据えて市役所のあり方を抜本的に見直すような方針や施策は不透明なままです。目先の人口を増やす（減少を抑制する）施策に力を入れることを否定しませんが、人口減少・少子高齢化という大きな社会構造の変化に対応するための構造改革の施策とセットで打ち出すべきです。手遅れになる前に、将来を見据えた構造改革に早く着手し、具体的な取り組みを進めていくことが重要だと感じています。

税金の流れの透明化

ムダの排除

既得権の見直し

市民の手に税金と政治を取り戻します!!

活動の詳細はホームページをご覧ください

かじや知宏

で 検索



ブログのQRコード



tomohiro.kajiya



@kajiya_tomohiro

※フェイスブックとツイッターのアカウントを開設しています。

駅前報告を行っています

～570回継続中～

一人でも多くの市民の方に市政情報をお伝えしたいという想いから、午前6時20分頃～8時30分頃に駅前「市政報告」の配布を行っています。